

平成 30 年度町政懇談会記録（要旨）

開催日：平成 30 年 7 月 10 日（火）

開式：午後 7 時 00 分 閉式：午後 7 時 45 分

場所：八幡新田コミュニティーセンター

参加者：男 16 人、女 0 人、計 16 人

町職員：町長、副町長、建設部長、政策課長、政策課員

- ・開会 19：00
- ・町長報告 19：00～19：20
- ・懇談 19：20～19：45
- ・閉会 19：45

○東員駅前開発についての報告（町長）

○懇談

男性 1 東員駅前開発についてお聞きします。県が新たに都市計画を決める中で、駅前のみを住居地域にするということですか。

町長 東員駅前の 37ha を開発し、市街化編入することが目的です。市街化編入するためには中心部分の 18ha を住宅や商業施設、医療施設を設備して開発する約束ごとがあって初めて許可をしてもらった案件です。その中心部分を民間開発ですると三重県と協議の上決めたものです。

男性 1 三重県は今後市街化に編入させないということですか。

町長 このままいけば市街化への編入は出来ないと思います。例えば、地権者全員が市街化に編入をしてくれという話になればそれは可能ではありますが、現状それは難しいと思います。

副町長 三重県のマスタープラン変更後、人口増加目的の市街化編入は出来なくなりしますので、それまでに市街化編入したかったのですが、断念せざるを得なくなりました。申し訳ありません。

男性 2 人口を増加するための市街化編入はなぜだめなのですか。

町長 東員町の都市計画マスタープランを県に報告したところ、県から「三重県全体の人口が減少しているため、これ以上市街化編入して増加させるのをやめなさい。人口増加は現在の市街化の地域でやりなさい。」と話があったため、三重県の都市計画マスタープランの変更がある来年の都市計画審議会の後では人口増加の開発ができないという国の決定があるからです。

男性 2 この事業の進め方が、行政、地権者、議会があちこちにしているため間に合わなかったということになる。進め方がどうだったかわかりませんが、地権者が組合を作ってでもやりたいとはならなかったわけですか。

町長 地権者は残念だという意見が多かったです。地権者が降りたわけではなく、事業者がいなくなった。地権者をまとめる人がいて組合を作ってもやりたいという意見があればやりますが、それはなかなか難しいだろうというのが見解です。

男性 1 東員町のどこまでが市街化地域なのか教えて欲しい。

建設部長 員弁川の北側はおおよそ市街化地域ですので原則その範囲、次に可能なものは市街化地域から 1km 以内の白地（優良農地以外など）はミニ開発が可能です。規定は色々ございます。員弁川から南は市街化地域がありませんので、農家の分家しか開発はできません。

男性 3 財政についてお聞きします。収支や収入などがどうなっているかを詳しく教えて欲しい。また、東員町はこのままで財源は大丈夫なのか。

政策課長 平成 29 年 10 月号で財政状況を報告させていただいております。広報の方で出来るだけわかりやすく説明させてもらっています。また、将来推計についても平成 29 年 9 月号にも掲載させていただいております。財政状況は、厳しい状況が続き、良くなるということはないと考えています。その局面をどう改善するかを財政課を中心に考え、事務処理の改善などを見直そうと考えています。

男性 3 これからの東員町の先行き（インフラ整備や RDF など）については、きちんと考えているのか。

政策課長 インフラ整備については、構築したのちの耐用年数を見ると、20～30 年後に小・中学校を改修しなければならない時期が来ます。計画的にやらなければならないので、公共施設の維持管理計画を作り、具体的に検討しています。

町長 RDF については平成 33 年度に移行でしたが、来年の 9 月から新しく稼働し、移行を前倒しします。その移行が終われば、皆さんへの負担が少なくなります。その負担の削減を公共施設の老朽化対策に使おうと検討しています。

男性 3 水道料金についてはどうなりますか。

町長 水道料金は、再来年度から少し値上げをさせていただきます。しかし、値上げしたとしても三重県で一番安いという事実は変わりません。

男性 3 地方債は増えていると聞いたが今どうなっていますか。

政策課長 財源の確保については今までは貯金を切り崩して財源としていたが、最近では金利がかなり安くなっていますので、貯金を切り崩さずに金利が少ない状態（現在は 0.1 パーセントの金利）で借りて財源に充てるほうが有利な借入れがありますので、判断を切り替えています。

町長 できるだけお金を有効に使うように考えてもらっています。町の投資を少なくするために、民間活用をしようとも考えています。東員町でいえば新産業プロジェクトです。東員町で大豆を作成し、加工して販売するために農業者 2 社と企業と共同開発しているところでもあります。三重県産業支援センターからお金を借りましたが、町の持ち出しは 80 万程度です。農業者が加工し、販売すれば収益もあがるし、農業従事者も増えると見込んでいます。来年・再来年に東員町に工場を建てる計画をしており、6 次産業化を民間と共に進めようと考えています。